

病 害 水 俣

12年目の 衝撃

新潟の視察団が教えたもの

果敢の町水俣へ、水俣病と呼ばれる有機水銀中毒事件が発生してから12年になる。戦後最大の公害事件として日本中の注目を集めた水俣だが、12年の歳月はこの町にもすっかり平穏を取り戻させ、人々の記憶からも悲劇の思い出は消えかかっていたかに見える。ところがこの12年目の水俣へ、第二の水俣病が発生した新潟から患者や支援団体のメンバーが大勢おしかけてきた。

まだ69人が療養生活

水俣では、水俣病はタヌキで、市民の一人がふともう一人、ふともう一人と連鎖的に、12年目の水俣病の発生を物語っている。実際のことから、今日の水俣市民の生活の中から、あの悲劇の残響をかきとることはほとんど出来ない。魚介は厳禁に出回り、一時はさびれてしまった町の景観も在時のにきわみを取り戻している。水俣という地名さえなかつたら、人はこの町が悲劇の町だとは知らずに通り過ぎてしまつたらう。

しかし、そうした外見の平穏さにもかかわらず、水俣病の悲劇は決して終わっていないことを、人はみな知っている。瀬の尻のり

ハビリテーション・センターには、十一人のいたいな子どもを養育する施設が設けられており、お母さんやお父さんがいない子どもたちを育てる。お母さんやお父さんがいない子どもたちを育てる。お母さんやお父さんがいない子どもたちを育てる。

なぜ黙っている

支援組織の強さまで

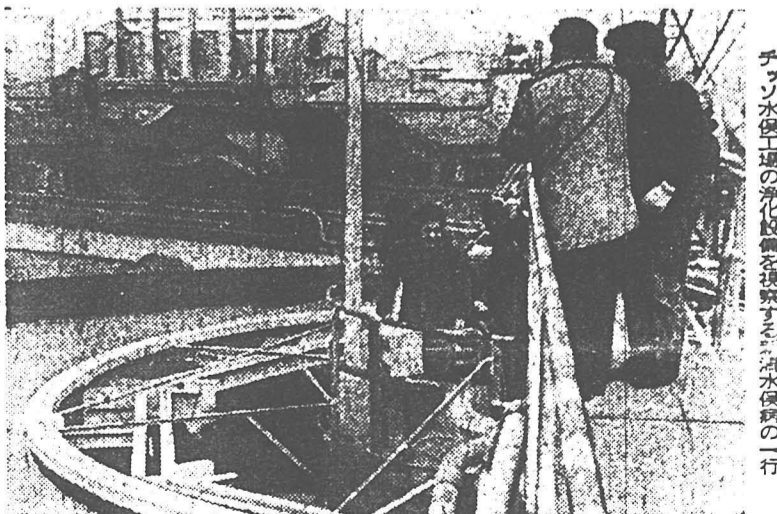
もっと市民との一体化を

明るかった新潟の患者

患者と市民 初めて集会

「一千九百の午後、水俣駅に到着した新潟の一行は、近江代一被災者の会長、斎藤恒対策会副会長の案内で、水俣の市民たちにはあるのだから……」

新潟で第二の水俣病発生というニュースは、水俣の市民にとって重いショックだったはずだ。その新潟から患者や支援団体のメンバーが大勢おしかけてきた。お母さんやお父さんがいない子どもたちを育てる。お母さんやお父さんがいない子どもたちを育てる。



チッソ水俣工場浄化設備を視察する新潟水俣病の一行

援助にも事情の違い

「一方、水俣の場合はどうだったろう。」「新潟は訴訟までしてかえって援助がなかった……」

「一方、水俣の場合はどうだったろう。」「新潟は訴訟までしてかえって援助がなかった……」

痛ましい胎児性水俣病

「胎児性水俣病においても、新潟は今日に至るまで正式には原因が不明であることが認められていない。」「胎児性水俣病においても、新潟は今日に至るまで正式には原因が不明であることが認められていない。」

物心両面の援助続ける

市民会長の目黒さんは「まず第一の目標はやはり会社にはつきり責任を認めさせること。」「同時に患者を物心両面にわたって援助していきたい。たゞ今は現在、会社の年金も生活保護の収入と認定されるため、きりきりとした生活保護が受けられない人が何人もいます。また、せうが立派なリハビリセンターがなければならぬ。」「胎児性水俣病の被害者も、胎児性水俣病の被害者も、胎児性水俣病の被害者も……」

新潟水俣病対策会(現在は千五百名が加入)が結成され、全面的に援助されて、日吉ふみ子(市議員)松本勉(市議員)石牟礼道子(作家)さんら市民有志の呼びかけでその数日前に結成されたばかりだった。ともあれ、この日教育会館で開かれた合同集會は、水俣で初めて患者と市民が一緒になって開いた集會であった。

一行は二十四日まで滞在、チッソ水俣工場、リハビリテーション・センター(水俣市立病院付属)の児科病棟、船大医学部などを視察。夜は患者の家庭に泊まり込んで、お互いの体験を語り合った。新潟からわざわざ水俣病の本部まで来てくれたのは、彼らの態度は真剣そのもの。リハビリテーションなどでは療養効果などについて真剣な質問を担当医へ浴びせていた。

リハビリテーション・センターを訪れた一行は、痛ましい胎児性水俣病の子らに思わず涙ぐんだ。

胎児性水俣病においても、新潟は今日に至るまで正式には原因が不明であることが認められていない。」「胎児性水俣病においても、新潟は今日に至るまで正式には原因が不明であることが認められていない。」